



加賀 東蔵さん(69)

自宅は高台にあったが半壊。娘の家で避難生活を送り吉里吉里の災害公営住宅で妻と2人暮らし



### 一定面積以上の土地取引は届け出が必要です

一定面積以上の大規模な土地取引をされた場合、国土利用計画法に基づく届け出が必要なことをご存知でしょうか？土地の売買契約などを結んだ日から2週間以内に、その土地が所在する市役所、町村役場への届け出が必要です。届け出が必要な面積は次の通りです。

市街化区域	2,000㎡以上
市街化区域を除く都市計画区域	5,000㎡以上
その他の区域	10,000㎡以上

●お問い合わせ

大槌町役場 復興局 用地建築課  
電話 0193-42-8719  
県環境保全課 電話 019-629-5268・5269

### ◆吉里吉里災害公営住宅 友人たちがひっきりなしに 来てくれるんだよ

加賀東蔵さん

「最初、5階はよんだなあと思ったけれど慣れた。動きやすい快適な作りでお風呂もガスも使いやすいし、収納も充実してるからね。今では快適、前から住んでたような気がする」

吉里吉里の災害公営住宅はマンション形式。この辺りでは馴染みが薄いマンションですが加賀さんは入居してから快適さを実感しています。震災で高台にあった自宅は津波被害は逃れたものの半壊。その後津波で亡くなった長男の供養をしながら知人、親戚、お子さんの家を行ったり来たりしていました。「ホタテ、ワカメ、ホヤの養殖をしていたけれど施設も全部流されてしまったので大きな収入も見込めない。再開にもお金がかかるし家を建てる見込みもない。宮城にいる娘のところまで暮らそうかと思ったがやっぱり吉里吉里に帰ってきたくて申し込んだんだ」

2DKタイプの住居はコンパクトながらもご夫婦お二人が今後の人生をゆったり快適に過ごせる空間。廊下やトイレも広くフラットで将来も見据えた設計になっています。長男を亡くしてからずっと海に恐怖心を抱いていた奥様はベランダから遠目

に見える海にだんだんと慣れて来たとも。

マンションには集会所も設置され、今後自治会が出来る見込みです。「ここに住む知人に、手伝うからもし自治会作るなら一緒にやろう、と言われている。そして吉里吉里に帰って来たから今は定置のワカメの手伝いに行ってるんだ」と加賀さんはイキイキと話してくれました。

「前の家のように皆が集まって来る。息子の同級生なんかもひっきりなしに来てくれる」思い出の写真を時折見せながら、また夫婦でお互い冗談を言い合いつつもいたわり合いながら、ここでの暮らしを地域の人たちと営んでいこうという横顔が垣間見えました。

### ◆大ケ口災害公営住宅 長女の誕生日を広い家で 祝うことが出来ました

寒河江絵梨子さん

8月30日から始まった大ケ口地区(木造の長屋形式)と吉里吉里地区(マンション形式)の災害公営住宅への入居。それぞれの住宅へ入居した二世帯の方から震災後、災害公営住宅へ入居するまでの経緯、住宅の特徴、住み心地などをお聞きしました。

「震災の後山田町船越にある私の実家に何日かいて、その後沢山にある夫の実家へ避難しましたが義母は一人暮らしで部屋数も少なかったため、申し訳ない気持ちになり長くはられないだろう、と思っていました。7月初めに仮設に入り、5人家族なので2Kを2戸借りることが出来ました。一つは生活する部屋、もう一つは寝るだけ、と行ったり来たりでした。買い物に不便だとか子ども

もの送り迎えが大変だとかはありましたが悪くはなかったですね」

寒河江さんは震災後から現在までを振り返り避難時のエピソードを時に笑顔で語ってくれました。仮設住宅での生活は約2年。子どもをお隣の一人暮らしのおじいちゃん可愛がってくれたり、おかずをたくさん作ったときは持っていったりなどの近隣ともお付き合いがありました。そんな暮らしの中で災害公営住宅への申し込んだきっかけは、家を建てたくても土地が少なく、町がどこにどう出来て行くかわからないので公営住宅に入居してしばらく様子を見よう、ということでした。

「夫はどうせ当たらないからやめた方がいい、と言いましたし私も当たると思っていました。5人家族なので4DKが当たらなければ入居はやめようと思いました。入居が決まってから部屋を見に行った時、広い！と(笑)。仮設住宅から荷物を持って来てもスカスカになるの



復興へ一歩  
災害公営住宅  
の暮らし



寒河江 絵梨子さん(37)

夫の実家→仮設住宅に避難後、8月末から大ケ口の災害公営住宅(4DK)に家族と5人暮らし

ではないかと思っただけです」

お部屋を拝見させて頂いたと各部屋の収納は充実しており、ご家族がゆったり出来る空間が広がっています。

「入居した次の日、お姉ちゃん(長女)の誕生日だったんですがここでお祝いすることができました。自分の部屋が出来て嬉しいと言っていて広くなったのでお友だちを呼んだりして遊んでいます。そしてお父さんと子どもたちが遊べる空間が出来ていいですね。夜、子どもたちが寝てから夫婦でくつろぐ時間も出来ました。仮設では子どもたちを起こさないように話し声にも気を使いましたから。縁側でバーベキューしたいですね」と寒河江さんは穏やかな笑みを見せてくれました。

大ケ口災害公営住宅は独立行政法人都市再生機構(UR)が建設を手がけました。人口の減少を食い止めるためにも入居者が長く住み続けられる工夫を、ということで地元産木材を活用し産業振興と雇用創出の効果も視野に入れて建てられています。周辺との調和を意識した低層の和風建築、車椅子居住者や高齢者に配慮した設計、交流の場になる集会所やベンチが設置された広場、大槌の水資源を活かした井戸など随所に様々な工夫が施されています。